高須中だより

～一人一人　一つ一つ　を大切に～

北九州市立高須中学校
学校だより

校長　岩本　健司

令和５年１月１１日発行

令和4年度全国学力・学習状況調査の結果の報告と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和4年4月19日（火）に、3年生を対象として、「教科（国語、数学、理科）に関する調査」と「生徒質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

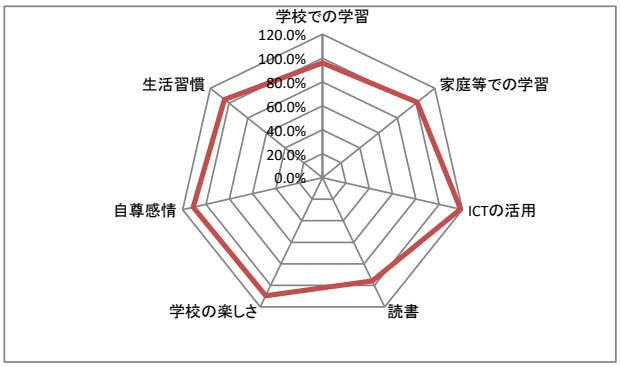
学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 教科に関する調査結果の概要

教科・区分	学力調査の分析（傾向や特徴）	全国平均正答率との比較
国語	文脈に即して漢字を正しく書く問題ができた生徒の割合は高かった。自分の考えが伝わる文章になるように，根拠を明確にして書く問題ができなかった生徒の割合は高かった。	下回っている
数学	データの傾向を的確に捉え，判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができる生徒の割合は高かった。自然数を素数の積で表す問題ができていない生徒の割合が高かった。	下回っている
理科	モデルを使った実験において，変える条件と変えない条件を制御した実験を計画できるかどうかをみる生徒の割合は高かった。日常生活や社会の中で物体が静電気を帯びる現象を問うことで，静電気に関する知識及び技能を活用できる生徒の割合は低かった。	下回っている

2. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析
・ICTを授業中に活用していると答えた生徒の割合は、非常に高い。 ・自尊感情が高い生徒の割合は、非常に高い。 ・自分の考えを発表する機会では，自分の考えがうまく伝わるよう，資料や文章，話の組立てなどを工夫して発表してた生徒の割合は少なかった。授業の中で、自分の考えを発表する場を多く設定する。

3. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

○考える時間の確保と班活動の充実により、学ぶ力をアップさせていく。
○「わかる」から「できる」になるための課題の工夫を行う。
○計算コンクール、英単コンクールなど、達成感が味わえる基礎学力向上の取組を計画的に行う。

② 家庭生活習慣等に関する取組

○生活習慣を見直し、よりよい生活習慣になるような機会を設定する。
○家庭学習の習慣を身に着けるよう、学級活動や学年集会等で語る場を設定する。